

Monthly Report

東北初！女子硬式野球部 来春創設の記者発表を行いました



(前列左から) 千葉さん、廣田さん、木明桜さん
(後列左から) 重巢教授、高橋学長、江尻教授、入澤准教授

〈目次〉

・東北初！女子硬式野球部 来春創設の記者発表を行いました	1
・櫻井雅浩教授が国際学会で研究報告 ・【スポーツ情報サポート研究会】ワークショップを開催	2
・本学OBの南一輝選手が全日本体操種目別ゆか4連覇を報告 ・硬式野球部の辻本倫太郎選手（体育3年）が侍ジャパン大学日本代表に選出を高橋学長に報告	3
・男子バレーボール部：活動報告	5
・バドミントン部／成田行磯が東北学生選手権制覇！齊藤梓も4位入賞！ ・軟式野球部メンバー6名が東北選抜に選出	6
・芝草通信 NO. 36	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 50	8

令和5年度春に東北で初となる女子硬式野球部を本学に創設することの記者発表が7月1日（金）に本学LC棟を会場におこなわれました。

近年、女子の野球競技人口は増加傾向にあり、今年度に入ってから各地の高校での創設や、女子野球に対する企業の支援等の報道が続いています。大学においても全国各地域で創設が進んでいますが、東北地区では設置おらず、このような状況を踏まえ、硬式野球を続けたいという女子学生の受け皿となれるよう、東北地区の大学では初となる女子硬式野球部の創設を決めたものです。

チームスタッフとして、監督には現在硬式野球部コーチの入澤裕樹准教授、部長は江尻雅彦教授が硬式野球部部長が兼務し、副部長は女子学生支援の観点から重巢吉美教授が就任する予定となっています。

創設に際しては、昨年の東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業を共同で実施した柴田町と白石市、乳幼児の健康づくり等での連携や、男子硬式野球部が球場をお借りしている角田市から、練習場所の提供など全面的に支援していただけることとなっています。

会見では高橋仁学長が「今回の女子野球部の創設が、スポーツによる仙南地域の活性化にもお役に立てるよう、新しい部活動のスタイルを模索していきたい。また、近隣の3つの自治体の恵まれた環境をフルに活用して、女子の選手たちが存分に練習できるように支援していきたい」と話し、入澤裕樹監督は「大学日本一を目指しながらも、地域を活性化できるように元気と明るさで活気のあるチームにしていきたい」と今後に向けて抱負を述べました。

会場には、既に入部を希望している在学生3名も参加。選手としての活躍が期待される千葉真希さん（子ども運動教育1年）は「私はソフトボールしかしたことがないので、たくさんの困難にぶつかるとは思いますが、野球というスポーツに新たに触れて楽しみたい」、選手を支えるマネージャーを希望しているという廣田美憂さん（体育学科1年）は「チームを支えて勝利に貢献できるようなマネージャーになりたい」、アナリストを希望するという木明桜子さん（スポーツ情報マスメディア学科1年）は「データ分析を通して得られる個人やチームの強みや弱みを選手に伝えたい」と早速新チームでの活躍を誓いました。

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

櫻井雅浩教授が国際学会で研究報告

5月29日からイギリスのスコットランド南西部に位置するグラスゴーで行われた国際脳循環代謝学会に櫻井雅浩教授がオンラインで研究発表をしました。



今回発表した研究は山形大学との共同研究によるもので、脊髄虚血後のMRI画像の解析を行ったものです。研究成果は今年中に然るべき雑誌に投稿予定される予定です。

BRAIN & BRAIN PET 2022
GLASGOW // 29 MAY - 1 JUNE 2022

An attempt to early detection and early treatment of spinal cord ischemia using clinical MRI
Shingo Nakai¹⁾, Masahiro Sakurai²⁾, Kouji Abe³⁾, Kazuyuki Haga⁴⁾, and Tetsuro Uchida¹⁾

1) Division of Cardiovascular Surgery, Department of Surgery II, Yamagata University Faculty of Medicine
2) Sendai University, Faculty of Sport Science
3) National Center of Neurology and Psychiatry
4) Radiation Department, Yamagata University Hospital

Background
In aortic surgery, paraplegia due to spinal cord ischemia is an important complication that terribly reduces the patient's quality of life. However, there is currently no reliable treatment or early detection method that can be applied clinically beyond the realm of basic research.

Aim
To establish a reliable method for early detection and treatment of spinal cord ischemia, and as an initial step, we analyzed signal changes in the ischemic spinal cord of rabbits using clinical magnetic resonance imaging (MRI).

Materials and Methods
Animals: Japanese White rabbits (2.0-3.0 kg)
N=19
sham n=5
8hr group n=5
24hr group n=4
48hr group n=4

Anesthesia: Mixed anesthesia: intravenous injection
Medetomidine hydrochloride 0.15 mg/kg BW
Midazolam 2 mg/kg BW
Butorphanol tartrate 2.5 mg/kg BW
Seyofurane / inhalation anesthesia

Neurological assessment:
Neurologic scores*
0 hind-limb paralysis

Experimental Protocol
Pre-experiment neurologic assessment
Anesthesia: (Dibutylbarbitone injection & orotracheal intubation)
Infra-renal Abdominal aorta occlusion (15min)
[UV Fogarty catheter inserted through the right femoral artery, and advanced 15 cm forward onto the abdominal aorta.]
Sham
1 right femoral artery occlusion
After specified time
8hr 24hr 48hr
Post-experiment neurologic assessment
MRI exam
Image analysis (T2WI):
Signal intensity (SI) at the region of interest (ROI) (sacrify)

MRI Evaluation Method
SI Index at anterior horn SI Index ischemic anterior horn
SI (ischemic anterior horn) SI (ischemic anterior horn)
SI (Normal anterior horn) SI (ischemic posterior horn)

Results
1) Neurologic assessment
Rabbits Pre-experiment Post-experiment Mean ± SD
Sham 0 0 0
8hr 0 0 0
24hr 0 0 0
48hr 0 0 0
SI 1 1.2 ± 1.8
SI 2 1.2 ± 1.5
SI 3 1.2 ± 1.5

2) MRI: ① SI index at anterior horn
SI index at anterior horn
Sham 8hr 24hr 48hr
P=0.034

3) MRI: ② SI index ischemic anterior horn
SI index ischemic anterior horn
Sham 8hr 24hr 48hr
P=0.005

Peaks at 24 hours and decays.
→ At 24 hours, the anterior horn was specifically high-signal, but at 48 hours, the posterior horn was also high-signal, and the overall signal was high.

MRI images of ischemic spinal cord (axial)
sham 8hr
24hr 48hr

Spinal cord anterior horn (motor neurons)
→ The signal value of the anterior horn is maximal at 24 hours and then decays.

Comments & Conclusions

大動脈瘤手術後の重篤な合併症「脊髄虚血」をウサギを使ったモデルで再現しています。このモデルを使って1994年から研究を続けています。

【スポーツ情報サポート研究会】ワークショップを開催

6月14日（火）から7月29日（金）までの間、スポーツ情報サポート研究会に所属している学生を対象に、分析ソフトのワークショップを開催しています。ゲーム分析では「Hud1 Sportscode」、動作分析では「DARTFISH」の操作方法を身に付けるため、期間中全7回のワークショップを通して操作体験をおこなうこととしています。7月1日（金）までに3週間分のプログラムが終了し、これまで11名の学生が参加しています。

今回開催のワークショップへの参加がきっかけとなり、部活動のサポートに活かしてみようと考えた学生や、分析ソフトの操作スキルが求められるアナリストのインターンに挑戦しようと考えた学生もいました。

スポーツ情報サポート研究会では、スポーツを情報戦略の面からサポートするために必要なスキルを修得したり、それぞれの競技現場で直面している課題について一緒に考える場を設けています。

引き続き活動の様子をお知らせしていきたいと思ひます。

<スポーツ情報サポート研究会>



操作説明を受ける学生



分析作業に取り組む学生

本学OBの南一輝選手が全日本体操種目別ゆか4連覇を報告

今年3月に本学を卒業し、現在はエムズスポーツクラブ（M・S・C）で体操競技を続ける南一輝選手が6月28日に本学を訪れ、高橋仁学長に全日本体操種目別選手権でのゆか運動4連覇を報告しました。

南選手は大会中の予選2位で臨んだ決勝の状況を「プレッシャーを感じていましたが演技中は楽しむことができました」と語り、序盤からの連続回転のジャンプや、後方抱え込み2回宙返り3回ひねりの大技「リ・ジョンソン」を決めたことが4連覇達成の決め手と振り返りました。しかし、着地ではミスが出てしまい、納得する演技ができなかったという南選手は、来年に向けて「ゆかでの5連覇と、今回ケガの影響で決勝を回避した跳馬でもメダルを取り、世界で勝つための準備をしていきたい」と更なる活躍を誓いました。

高橋学長は「後輩たちは南選手の後ろ姿を見て、刺激としている。教職員も南選手の活躍を楽しみにしているので、ぜひ地方から世界一となるように頑張ってもらいたい」とエールを送りました。



（左から）高橋学長、南選手、
M・S・C松村俊輔代表（本学OB）

硬式野球部の辻本倫太郎選手（体育3年）

侍ジャパン大学日本代表に選出を高橋学長に報告

本学硬式野球部の辻本倫太郎選手（体育3年）が、7月5日～7月15日にオランダで開催される「第30回ハーレムベースボールウィーク」の侍ジャパン大学日本代表に選出されました。6月28日には高橋仁学長を訪れ、選出の報告と共に大会での活躍を誓いました。

辻本選手の「日の丸を背負ってプレーするので、世界一を取れるように貢献したい」との決意に対し、高橋学長は「『勝敗は時の運』とも言われるが、常に一番になるんだという気持ちをもってプレーをしてきてほしい」と激励しました。

本学からの日本代表選出は、第27回大会に出場した熊原健人投手（H27年度卒・元プロ野球選手）以来2人目です。



（左から）高橋学長と辻本選手

プロフィール

辻本 倫太郎（つじもと りんたろう）

投 打 : 右投右打

ポジション : 内野手

出身高校 : 北海道・北海高等学校

男子バレーボール部：活動報告

6人制クラブカップ宮城予選を制し、全国大会の切符を掴む

仙台大クラブ（男子バレーボール部）が6月12日（日）に宮城県・多賀城市総合体育館で開催された2022年度全日本6人制バレーボールクラブカップ男女選手権大会宮城県予選会で優勝しました。

結果は以下の通り

仙台大学クラブ 2 (25 - 23、25 - 18) 0 東北学院大クラブ
 仙台大学クラブ 2 (26 - 24、21 - 25、25 - 20) 1 阿武隈会

チームは今後、8月4日（木）～8月7日（日）に岡山県岡山市で開催される第41回全日本クラブカップ選手権大会に出場します。



激闘の末、一步及ばず

第41回東日本バレーボール大学選手権大会が6月22日（水）から町田市総合体育館で開催されました。

本学男子バレーボール部は1回戦で富山大学に勝利を収めました。続く筑波大学との2回戦では激闘の末、惜しくも敗れました。

結果は以下の通り

1回戦 仙台大学 2 (23 - 25、25 - 17、25 - 19) 1 富山大学
 2回戦 仙台大学 1 (24 - 26、27 - 25、15 - 25、18 - 25) 3 筑波大学



ミニ国体への出場を決める

第77回国民体育大会バレーボール競技宮城県選考会が6月26日（日）に多賀城総合体育館で開催され、本学男子バレーボール部が優勝を果たしました。

前年度優勝の本学は東北学院大学との決勝戦に臨みました。

結果は以下の通り

仙台大学 3 (25 - 20、25 - 21、25 - 23) 0 東北学院大学

これにより、本学男子バレーボール部は8月19日から青森県で開催される東北ミニ国体に宮城県代表として出場します。



なお、Twitter ; 仙台大学男子バレーボール部 (@sendaivolley)、Instagram : 仙台大学男子バレーボール部 (sendaiunivolley) から情報を発信していますので各SNSのフォローもよろしくお願いいたします。

<男子バレーボール部>

バドミントン部／成田行磯が東北学生選手権制覇！齊藤梓も4位入賞！

5月27日～6月2日、山形県山形市で東北学生春季リーグ戦と東北学生選手権が開催されました。

春季リーグ戦では、男女ともに1部3位で目標の優勝に届かず悔しい思いをしましたが、個人戦である東北学生選手権では男女それぞれのエースが躍動しました。

成田行磯（体育4年）は、これまで3連敗、今大会の団体戦でも敗れていた八島良弥選手（東北学院大学）が準決勝の相手でしたが、前日にアナリスト・須田翔大（スポーツ情報4年）と対策ミーティングを行いました。

須田は、八島選手の試合映像を誰よりも多く観てデータを収集していたことから試合のコーチングシートにも入ることにしました。ミーティングで立てた作戦が的中し、まったくリードを許すことなく完勝することができました。

決勝の相手は、東北学生を連覇し、直接対決でも連敗中の大畑龍平選手（東日本国際大学）でした。こちらでもミーティングでの策が当たり、1ゲームを先取しましたが、相手も粘り強く2ゲーム目を取り返され、ファイナルゲームも一進一退の展開となり20-20から2点先取して優勝まで到達しました。

アナリストの須田だけでなく、コンディショニングを担当したアスレティックトレーナーの中嶋蒼（体育4年）などスタッフ学生全員で勝ち取った優勝でした。



大会終了翌日に、高橋仁学長に優勝報告にうかがいました。

「自分が一番きつい練習をし、高い意識を以て取り組んでいた自信があった」と報告し、「東日本インカレや全日本インカレでも上位に食い込めるように頑張ってください」と激励をいただきました。

一方、女子の1年生エース・齊藤梓（スポーツ栄養1年）も準決勝に進出し、東北学生二連覇中の櫻庭ほのか選手（東北福祉大学）と対戦しました。互角に渡り合いファイナルゲームまで奮闘するも僅かな差で敗れ、3位決定戦においても健闘しましたが4位となりました。今大会における櫻庭選手の失ゲームは齊藤戦のみであったことから、今後に期待が持てる敗戦でした。



東日本大会や全日本大会において上位進出報告ができるように、選手ならびにサポートする学生たちも一緒にワンチームで精進してまいります。

<バドミントン部>

軟式野球部メンバー6名が東北選抜に選出

本学軟式野球部から6名が令和4年度大学軟式野球東北選抜として選出されました。

メンバーは以下の通り

○選手

岩渕颯太(スポーツ情報4年)

嶺岸奎(体育3年)

佐藤心乃介(スポーツ栄養3年)

山口大翔(健康福祉3年)

菊地雄大(体育3年)

○主務

鈴木希美(スポーツ栄養2年)



今後、他の大学のメンバーと交流し、その経験を部活に還元してくれることを期待します。

なお、本学軟式野球部は試合の采配を含め日常の練習等も学生監督、主将、主務が協力して活動を行っており、東北大会優勝、全国大会出場、そして全国大会で勝つことを目標に取り組んでいます。

是非、硬式、準硬式とは違う「軟式」という選択肢と一緒に戦う高校生の方皆さんをお待ちしています。

<軟式野球部>

芝草通信 NO. 36

担当 : 助教 野口 翔

ハスクバーナ オートモアの導入について①

皆さん、こんにちは。5月末より大学構内の噴水周りの芝生管理にオートモアという自動芝刈り機を導入しました。このオートモアはスウェーデンのハスクバーナという会社で開発されたロボット芝刈機で、最近テレビのCMで見かける方も多いかと思います。

自動刈込の仕組みとしては、自動掃除機をイメージして頂ければわかりやすいと思います。基本的には、チャージステーションを中心に低電圧ワイヤーを地中に埋設し、そのワイヤーを張った範囲内を走行し刈り込むものです。

(大学の製品は、GPSで走行跡を記憶し、同じ場所を走らないようになっています。)

今回は、オートモア導入の手始めに低電圧ワイヤーを埋設したときの様子を紹介します。

低電圧ワイヤー埋設手順

植栽や芝生から機械が出ないよう地際との間隔を決めロープを張る。
埋設には10cmほどの深さが必要なためスコップで切込みを付ける。
切込みに低電圧ワイヤーを埋設（留め具で固定）
チャージステーションに接続し刈り込み範囲を決定



ハスクバーナのオートモア



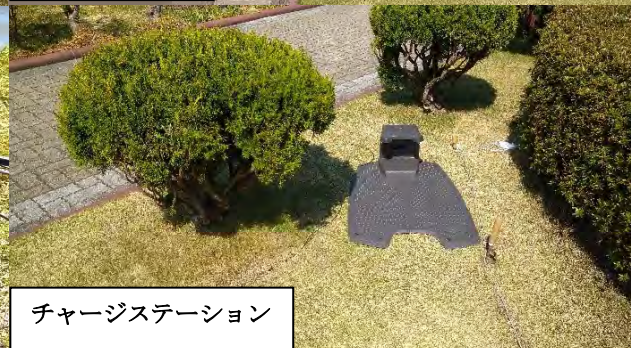
埋設作業の様子



切れ込みの跡



低電圧ワイヤーを地中に埋設しているところ



チャージステーション

「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 50

新助手 佐藤 章人

5月末から6月上旬にかけて、宮城県高校総合体育大会が行われました。高校総体は高校生にとって大きな大会の一つです。この大会を最後に引退する選手も少なくないため、各部活動がこの日のために日々練習に取り組んできました。東北大会への出場権を獲得したチームや選手がいる一方、目標としていた結果に届かず悔しい思いをした選手も沢山いたことでしょう。勝ち進んだチームも悔しい思いをしたチームも既に次の目標に向け動き始めています。

やはり競技スポーツの最終目標の一つは勝利することにあります。それを達成するためにメンタル面やフィジカル面のコンディションを含めた競技力の向上が必要です。選手は競技力の向上にむけて日々、負荷の高い練習やトレーニングに耐え、かつより効率的な動きのできる身体を手に入れるべく「日々の身体のケア」と「自分自身の身体の特徴を理解すること」が求められます。

ひとつ目の「日々の身体のケア」については、練習後のケアとして、静的ストレッチや筋膜リリース、アイシングなどがよく聞かれる方法だと思います。しかし、有名なはずでも正しいやり方で行えていなかったり、継続して実施していなかったりすることが多くのスポーツ現場で見られるのではないのでしょうか。明成高校では多くの選手が積極的にケアを行っていますが、残念ながら継続的に行えていない選手がいることもまた事実です。ATとしてケアの大切さを伝えるとともに選手自らケアを行っていくような声掛けをしていきたいと考えています。

ふたつ目の「自分自身の身体の特徴を理解すること」については、私個人の取り組みとして、選手には痛みや違和感、ケガの仕方などを自身の言葉で表現してもらおうようにしています。極力選手の発言は否定せずに傾聴を心がけ、選手に寄り添うことで、その過程で痛みに対する考え方や、選手の身体の特徴や癖への理解に繋がると考えているからです。

私がATとしてできるサポートは微々たるものですが、目標に向かい日々必死に取り組んでいる選手一人一人のために、少しでも貢献できるように尽力していきたいです。



～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探求することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画